

特集

パチスロ 専門店に勝機

成長部門の波に乗れ!!

6号機以降から落ち込んでいたパチスロの業績が昨年来急回復。客数シェアでもパチンコを上回るエリアが増え、一時期の低迷を完全に脱した。この好調の波に乗り、既存の併設店舗をパチスロ専門店に変更するような動きも増え始めている。

(表1)2023年に閉店した店舗

設置台数	閉店店舗数
100台以下	17
101台~300台	278
301台~500台	199
501台~1,000台	91
1,001台以上	3

(表2)パチンコ・パチスロの粗利推計

年	税込み粗利(全国年間)前年比				
	全体	4円パチンコ	低貸パチンコ	20円パチスロ	低貸パチスロ
2021年	96.9%	108.2%	98.0%	85.7%	78.2%
2022年	104.0%	113.5%	103.2%	92.7%	85.2%
2023年	109.0%	98.0%	98.0%	134.0%	122.0%

作成/ノンブル・マーケティング

スロ専出店を 検討する法人が増加

シリーズリサーチの調査によると、2023年に閉店した店舗は588軒だった。パチンコホールの店舗数と相關が高い指標のひとつが「粗利規模」だ。ダイコク電機のDK・SIS白書で集計している「業界総粗利」を警察庁が発表する店舗数で割ると、おおよそ1店舗当たり年間3億数千円で推移してきた。これは、1店舗の運営を支える店舗あたりの最低粗利を示すラインだと考えてもいいだろう。

この粗利規模はコロナ禍に見舞われた20年をボトムに回復傾向にある。20年以降は4円パチンコのハイミドルが主力となり、昨年からスラスロを中心としたパチスロの「稼ぐ力」が大きく回復した。

新規出店意欲も高まりつつある。今年7月の改刷に伴うユニット関連の変更があるが、そのコスト負担がどの程度になるのかもみえてきた。出店などの経営判断をするうえで、最も障壁となるのは、遊技機の性能が低下するといったネガティブな将来予測より、「見通しが不透明なこと」だろう。20年は以降は、コロナ禍からの回復途上であ

るうえで、スマート機関連のコスト負担や遊技機性能(主にパチスロ)がどうなっていくのか、どんなスケジュールでリリースされるのか、そしてその遊技機はファンに受け入れられるかなど、懸念材料が多かった。しかし、そういった不透明感が払しょくされつつあり、新規出店の微増と閉店店舗の減少で、「ホール軒数の減少」はこれまでよりも緩やかになっていくことが予想される。

中規模店舗が スロ専で再生?!

閉店に歯止めをかけそうなポジティブな要素として「パチスロの好調」が挙げられる。23年に閉店したホールを規模別にみると、「100台~300台」「301台~500台」といった中規模店舗が多い(表1)。これまで、新規出店に積極的な買い手法人は、台数規模基準として600台、800台などの大型の規模を条件としているところが多く、中小規模店舗は見送られてきた。その結果、このレンジの規模の店舗

数が「純減」していった。

だが、昨年からパチスロの業績が上がるのと同時に、そうした中規模店舗を取得してパチスロ専門店としてオープンする、あるいは既存の中規模店舗をパチスロ専門店に変えるケースが増えてきた。現時点でそうした変更を検討しているホールも、聞き及ぶ限りでも複数ある。

パチスロの業績は右肩上がりであり23年は前年比で134%成長(表2)。6号機になって相当落ちこんだため、その反動で上昇したという見方もできるが、そもそも近年は、長期で見てもパチンコ低下・パチスロ維持(粗利では微減)というトレンドで、それは今後も続いていくと想定される。

日本の今後の人口動態の変化を想定すると、パチンコ参加率が高い世代が離脱していき、パチスロ参加率が高い団塊ジュニア以下の世代がメインプレイヤーになっていく。もちろん、20年前後のようにPSで機械性能の大きな格差が生まれれば、一時的なパチスロ離れがあるかもしれないが、そうしたイレギュラーな要因がなければ、今後は相対的にパチスロの成長期待が高くなるのは当然だ。

懸念があるとすれば、パチスロは業績が回復してきているとはいえ、現状、多くのエリアで客数シェアが増加しているものの粗利シェアは客数シェアほ

ど増えていないことだ。一方で4円パチンコは客数シェアが落ちてきているものの、粗利シェアはそこまで下がっていない。これはパチスロを低粗利で運用し、その分パチンコで補完しているという構図が考えられる。それによって4円パチンコの運用に無理をきたし、客離れを加速させるといった大きなデメリットはあるが、パチスロ専門店は、こうした「収益源(パチンコ)」を持った併設店とエリアの中で戦っていかなくてはならない。

少台数のパチンコ設置 「準パチスロ専門店」も

そんななかで今後注目なのが、パチスロを主軸にトレンドのパチンコを少台数設置した「準パチスロ専門店」のような店舗だ。昨年末に既存店をリニューアルした「パールショップ」ともえ大和店(神奈川県大和市)は総設置台数473台のうち、パチスロは約100台、パチンコはスマパチを口との回遊性が高い1するといふ、「専門」を補完し、店舗の営業スタイル。ゴールには、1000台クチスロ専門店も増える予定となっており、動向にも注目してい

続きはデジタルブックで
ご覧いただけます。

詳細はこちら▶